

『もう遅い』 作：ポチ子

やりたいたことがあった。

でも、中学生の時は、

小学生から始めなければ遅いと諦めた。

高校生の時は、

中学生から始めなければうまくならないと諦めた。

大学生の時は、

何かを始めるにはあまりに遅すぎると諦めた。

社会人になると、

どうして大学生から始めなかったんだろう、

そうすれば諦めずに済んだのにと思った。

何事にも遅すぎることはないと、

誰かが慰めの言葉をつぶやいた。

でも、それは少し違う気がする。

タイミングなど関係なしに、

得られる人もいれば、

なにも残らない人もいるのだ。

自分がそれを手に入れられないのを、

たまたまだという言葉で片付けたくないから、

私は遅かったのだと言い訳をする。

『もう遅い』 作：ポチ子

何かのせいにすれば、

自分を責めずにすむから。

— 終わり —